

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第41輯

陶邑・大庭寺遺跡

近畿自動車道和歌山線建設に伴う発掘調査報告書

本文編

1989

大阪府教育委員会
財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書 第41輯

すえむら 陶邑・おぼでら 大庭寺遺跡

近畿自動車道と歌山線建設に伴う発掘調査報告書

本文編

1989

大阪府教育委員会
財団法人 大阪府埋蔵文化財協会



河道 上・土層断面A-3 下・土層断面A-5



B地区 縄文・古墳時代河川



C地区 土器群出土状態



奈良・鎌倉時代建物群



奈良時代井戸・C667-OW

序 文

大庭寺遺跡は、全国的に著名な須恵器生産を行った陶邑古窯跡群に隣接しています。発掘調査前は、石津川の左岸沿いであるために、その氾濫原内と考えられていました。

ところが、次のような縄文～鎌倉時代にかけて、極めて重要な遺構・遺物を検出しました。

特に昭和36年の航空写真によっても黒く写っていたルートとオーバーラップして発掘された石津川の旧河道は、古墳～縄文時代にかけてまでも古く遡るものでした。その中でも古墳時代の河道からは、初期須恵器にまじって韓式系土器が多数見つかり、韓国で呼ばれている軟質土器と類似した土器も出土しています。洛東江周辺の遺跡からも発掘されており、須恵器工人達との何らかの関係をうかがい知る資料と言えます。

その河道は、須恵器生産に伴う開発によって引き起こされた洪水により6世紀後半には、埋まっていますが、その上層に奈良時代前期の大形かつ企画性がある掘立柱建物が多く出現します。その規模から一般集落とは異なった性格をもつ重要な建物群と考えています。

さらに、3世紀以上も経過した鎌倉時代には、大溝で囲まれた屋敷地内には掘立柱建物群・畑地・瓦器窯・井戸がユニットで存在しました。本遺跡と併存し近接する平井遺跡においても屋敷地内に瓦器窯を所有する現象がみられます。12世紀後半から13世紀前半といった限定された存続時期が、泉州地域の開発の画期の一つと言えます。

以上のように、重要な考古学的な成果もさることながら日本道路公団等のご協力をいただき遺構保存を行えたことも別の成果であります。

今後、この地域の発掘調査によって得られた成果が市民の方々への文化財に対する啓発と考古学的な調査研究に少なからずとも貢献出来れば幸いに存じます。

末筆ながら地元関係者、日本道路公団、ならびに関係機関に対して深謝申しあげます。

平成元年3月

大阪府教育委員会

文化財保護課長 吉 房 康 幸

序 文

大庭寺遺跡は、古代において全国的な規模を誇る須恵器の生産地として著名な陶邑古窯跡群に隣接して所在します。周辺には初期須恵器が多量に出土した深田橋遺跡や初期須恵器を生産した工人達の集落跡と考えられる小阪遺跡・大平寺遺跡が存在します。本遺跡は、これらの近接する遺跡群との関連が従来より指摘されてきましたが、既往の発掘調査例が少なく、詳細は不明でした。

発掘調査の結果、当初予想していたよりも大規模な遺跡であり、生活の跡も古く縄文時代にまでさかのぼることが判明しました。古墳時代の他にも奈良・鎌倉時代の遺構群が良好な保存状態で検出されました。

詳細については、本報告書に記述した通りですが、縄文時代・古墳時代の河川跡、弥生時代中期の溝、古墳時代の須恵器の集積遺構及び人形の線刻された板状木製品、奈良時代の集落跡や「上」「水」「清水」など墨書された土器、鎌倉時代前期の大規模な漆をめぐらした集落跡は考古学資料としては一級のもです。

これだけ各時代の貴重な考古学資料を得られたことは、当協会といたしましても、今後の埋蔵文化財の普及啓発ならびに調査研究に大いなる貢献をもたらすものと自負いたしております。

発掘調査の実施にあたりましては、種々ご配慮いただきました日本道路公団大阪建設局、大阪府教育委員会、堺市教育委員会をはじめとする関係各位に厚く謝意を表します。

平成元年3月

財団法人 大阪府埋蔵文化財協会

理事長 浅野素雄

例 言

1. 本書は、近畿自動車道と歌山線建設に先立つ、大阪府堺市大庭寺・小代（こだい）に所在する大庭寺遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、日本道路公団大阪建設局大阪工事事務所の委託を受けて、大阪府教育委員会文化財保護課の指導のもとに財団法人大阪府埋蔵文化財協会が実施した。
3. 発掘調査は、1987年4月1日から1988年3月25日までA・B・C地区を併行して行った。
4. 発掘調査及び整理の担当者は、以下の通りである。統括第2班班長 玉井 功
A地区 当協会調査課第6班 班長 森村健一、第2班 有井宏子
B地区 当協会調査課第2班 富加見泰彦、田中一廣
C地区 当協会調査課第6班 彌元田佳男、有井広幸
5. 報告書作成及び出土遺物の整理作業は、発掘調査と併行して進められ、1989年3月31日で終了した。
6. 本書の作成作業並びに遺物整理作業、遺構・遺物の製図、レイアウトと本文の執筆は、各担当者が分担して行った。なお文責は、本文目次に記した。尚、A地区瓦器は渋谷高秀、弥生土器は、今村道雄、両氏に執筆を依頼した。
7. 遺構写真については、各担当者が撮影を行った。遺物写真の撮影から焼付までは、小倉 勝、加茂幸彦が担当した。
8. 本書の編集は、調査担当者全員が討議した結果のもとに、森村が主担当し、副担当として、有井(広)があたった。
9. 遺構実測は、航空測量を実施し、航空写真及び20分の1、100分の1の平面実測図(遺構図・コンタ図)をそれぞれ作成している。
10. 調査の実施にあたっては、大阪府教育委員会をはじめとして、日本道路公団大阪建設局大阪工事事務所、堺市教育委員会、地元自治会、水利組合をはじめ関係各位の方々から格別の御配慮をいただいた。
11. 発掘調査及び報告書作成においては、大阪府教育委員会文化財保護課及び当協会職員諸氏の他に以下の各氏より御教授、指導をいただいた。記して深く感謝の意を表したい。

(順不同、敬称略)

立命館大学助教授 日下雅義、大谷女子大学助教授 中村 浩、大阪市立大学教授
榮原永遠男、(財)大阪文化財センター 入江正則・山口誠治・小野久隆・三好孝一、
奈良県立橿原考古学研究所 木下 亘、(財)和歌山県埋蔵文化財センター 土井孝之・
河内一浩、和歌山市文化事業振興団 前田敬彦、埼玉県立歴史資料館 酒井清治、岡
山理科大学 亀田修一

12. 本調査にあたっては、写真、実測図、及び当協会の「発掘調査規程」に準じた各種の台帳類を作成した。またカラースライドも多数作成している。広く各方面で利用されることを希望する。
13. 本遺跡は、大阪府教育委員会文化財保護課(当協会担当 広瀬和雄)と再三協議した結果、A-2・3、B-2・3・4、C-2・3地区を鎌倉、奈良時代の面に於いて保存した。将来の調査、研究、啓発普及に広く利用されることを希望したい。
14. C667-OW出土の木槿及びB250・333-OW出土の曲物の保存処理は、1988年8月1日より1989年3月25日の期間で、(財)元興寺文化財研究所に委託した。

凡 例

1. 本遺跡の発掘調査では、国土座標第VI系を基準にして、当協会が独自に設定した地区割方法（当協作成の「発掘調査規程」に基く）を使用している。その詳細については、本報告書第3章第1節調査方法を参照されたい。なお各遺構平面図には、国土座標第VI系の座標値をX軸とY軸についてキロメートル単位で表記した。
2. 本報告書に掲載した各遺構平面図の方位は、全て国土座標の北をNとした。なお大庭寺遺跡周辺での磁北は、座標北より西へ6度47分・真北は、座標北より東へ0度56分の方向にあたる。
3. 本書で用いたレベル高は、全て東京湾中等潮位（T.P.値）である。
4. 遺構番号は、調査時の番号をそのまま使用した。
5. 遺構番号は、基本的に調査時のものを使用したために、各調査区毎で完結している。そこで同一番号による混乱を避けるために、頭に各調査区のアルファベット（A・B・C）を付した。各調査区での遺構番号は、通し番号を原則とした。
6. 遺構の種類は、当協作成の「発掘調査規程」に準じ、以下の略号で表現した。
建物OB、竪穴住居OD、櫓・塀OF、土壇OO、柱穴OP、河川OR、溝OS、井戸OW、その他・不明OX
7. 各遺構の名称は、凡例5、6に準拠して以下のように表記した。例：B・C56-ORは、B地区の河川を示し、B地区全体で56番目に登録した遺構にあたることを表現している。
8. 本書においては、遺構実測図中の遺構番号を出来るだけ記入するように努めたが、全てを図示出来なかった。
9. 遺物番号は、各地区毎にトータル番号をつけたがレイアウトの都合上、割愛したので欠番が生じている。
10. 遺物実測図の縮尺は、土器・瓦類・木製品は原則として4分の1、石器は3分の2とし近世陶磁器（C152-OS）については写真図版のみの掲載にとどめた。
11. 遺構・土層図は、80分の1と40分の1に統一したが、それぞれの遺構の状況に応じて若干の遺構の縮尺を変更して設定した。
12. 本報告書で使用した土層・土器の色調は、小川正忠・竹原秀雄編著「新版 標準土色

根 第6版 1976年」を目測にて表記した。

13. 本報告書の作成作業にあたっては、担当者間で12回の編集会議を行い討論した。その中で、層序名、時代区分、用語、各実測図等を含めた記載方法についても、出来るだけ統一することに努めた。しかし、人的、時間的な制約から生じた表現方法等における不統一は、編集者の責任と各担当者の考えを尊重したためである。
14. B地区1区、B56-OR出土遺物については、実測図・写真は本稿に掲載しているが詳細については次稿に譲る。

本文目次

序文	
例言	
凡例	
第 I 章	調査に至る経緯……………玉井………… 1
第 II 章	位置と環境……………有井(宏)………… 2
第 1 節	地理的環境…………… 2
第 2 節	歴史的環境…………… 4
第 III 章	調査の方法と調査経過……………田中………… 8
第 1 節	調査の方法…………… 8
第 2 節	調査経過…………… 11
第 IV 章	調査の成果……………有井(広)、有井(宏)、田中、富加見、禰冨田、森村………… 14
第 1 節	層序…………… 14
第 2 節	遺構・遺物…………… 36
第 V 章	まとめ…………… 186
第 1 節	縄文・弥生時代……………有井(宏)………… 186
第 2 節	古墳時代……………富加見………… 187
第 3 節	奈良時代……………禰冨田、有井(広)………… 190
第 4 節	鎌倉時代……………田中………… 192
第 5 節	江戸時代……………森村、渋谷………… 195

挿 図 目 次

<p>第 1 図 大庭寺遺跡の位置及び旧地形・ 条里制復元図…………… 3</p> <p>第 2 図 土地分類図…………… 4</p> <p>第 3 図 大庭寺遺跡と周辺遺跡…………… 5</p> <p>第 4 図 調査地位置図…………… 8</p> <p>第 5 図 地区割の方法模式図…………… 9</p> <p>第 6 図 地区割図 (1/1500) …… 10</p> <p>第 7 図 大庭寺遺跡・模式土層図… 15</p> <p>第 8 図 A地区・土層断面図 (A-1) …… 17~18</p> <p>第 9 図 A地区・土層断面図 (A-2) …… 19~20</p> <p>第 10 図 A地区・土層断面図 (A-3) …… 22</p> <p>第 11 図 A地区・土層断面図 (A-4) …… 23~24</p> <p>第 12 図 B地区・河道土層断面図 …………… 25~26</p> <p>第 13 図 B-4地区・土層断面図 (B-2) …… 27</p> <p>第 14 図 B地区・土層断面図 (B-3) …… 29~30</p> <p>第 15 図 C地区・谷直交土層断面図 (C-1) …… 31~32</p> <p>第 16 図 C地区・南壁土層断面図 (C-2) …… 33~34</p> <p>第 17 図 A122・123・124・383・</p>	<p>384-OO遺構図…………… 37</p> <p>第 18 図 A地区出土縄文土器…………… 38</p> <p>第 19 図 A地区出土石器…………… 41</p> <p>第 20 図 B地区・縄文・奈良・鎌倉時代 検出面基本層序 (K14EG) …… 44</p> <p>第 21 図 B80-OX、B81~84OP、 B85-OO遺構全体図…………… 44</p> <p>第 22 図 縄文河川・トレンチ3・ 土層断面図…………… 45</p> <p>第 23 図 B80-OX・B81~B84-OP・ B85-OO 遺構図…………… 46</p> <p>第 24 図 B81-OP (B876)、80-OX 出土遺物…………… 47</p> <p>第 25 図 A47・102-OS 土層断面図…………… 48</p> <p>第 26 図 A102-OS、第Ⅶ-C層 出土遺物…………… 49</p> <p>第 27 図 A103-OS 土層断面図…………… 51</p> <p>第 28 図 A地区弥生時代面植物根痕群 検出図…………… 52</p> <p>第 29 図 B47-OD遺構図…………… 52</p> <p>第 30 図 B47-OD (B683) ・ B・C56-OR (B678・679・ 680・682・685) 出土石器 …………… 53</p>
--	--

第 31 图	C 地区出土遺物……………	54	第 60 图	A51—OS 土層断面图……………	79
第 32 图	B76—OW 遺構图……………	55	第 61 图	B·C56—OR 右岸遺構图……………	80
第 33 图	B76—OW 出土遺物……………	56	第 62 图	B43·44·48·50—OS 土層断面图……………	80
第 34 图	C666·668—OS 遺構图…	57	第 63 图	B54—OS 出土木製品……………	80
第 35 图	C666—OS 土層断面图· 出土遺物……………	57	第 64 图	B—1 区·B43—OS (B796)、 45—OS (B852)、48—OS (B666·B884)、53—OS (B794)、54—OS (B198)、 57—OS (B192·B318) 出土遺物……………	82
第 36 图	B1—OR 出土遺物……………	58	第 65 图	B—2 区·B43—OS (B904· B906·B917)、B48—OS (B886·B888·B896) 出土遺物……………	82
第 37 图	B·C56—OR 出土遺物…	59	第 66 图	B42·B43·B48·B300· B307·B308—OS 土層断面图……………	83
第 38 图	B·C56—OR 出土遺物…	60	第 67 图	C 地区土器群全体图……………	87
第 39 图	B·C56—OR 出土遺物…	61	第 68 图	第 1 群遺構图……………	88
第 40 图	B·C56—OR 出土遺物…	62	第 69 图	第 1 群出土遺物……………	89
第 41 图	B·C56—OR 出土遺物…	63	第 70 图	第 1 群出土遺物……………	90
第 42 图	B·C56—OR 出土遺物…	64	第 71 图	第 2 群遺構图……………	91
第 43 图	B·C56—OR 出土遺物…	65	第 72 图	第 2 群出土遺物……………	92
第 44 图	B·C56—OR 出土遺物…	66	第 73 图	第 3 群遺構图……………	93
第 45 图	B·C56—OR 出土遺物…	67	第 74 图	第 3 群出土遺物……………	94
第 46 图	B·C56—OR 出土遺物…	68	第 75 图	第 3 群出土遺物……………	95
第 47 图	B·C56—OR 出土遺物…	69	第 76 图	第 3 群出土遺物……………	96
第 48 图	B·C56—OR 出土遺物…	69	第 77 图	第 4 群遺構图……………	97
第 49 图	B·C56—OR 出土遺物…	70			
第 50 图	B·C56—OR 出土遺物…	71			
第 51 图	B·C56—OR 出土遺物…	72			
第 52 图	B·C56—OR 出土遺物…	73			
第 53 图	B·C56—OR 出土遺物…	74			
第 54 图	B·C56—OR 出土遺物…	75			
第 55 图	C130—OR 出土遺物 ……	75			
第 56 图	C132—OR 出土遺物 ……	76			
第 57 图	C132—OR 出土遺物 ……	77			
第 58 图	C683—OR 出土遺物 ……	78			
第 59 图	A5—OS 土層断面图……………	79			

第 78 図	第 4 群出土遺物……………	98	第 103 図	C533-OB 出土遺物 ……	111
第 79 図	A 地区包含層出土遺物 ……	98	第 104 図	C749-OB 遺構図 ……	112
第 80 図	B・C261-OS 土層断面図・ 出土遺物・B313-OS (B900) 出土遺物 ……	99	第 105 図	C750-OP 出土礎板 ……	112
第 81 図	B305-OS 土層断面図 ……	100	第 106 図	C 地区出土柱根実測図 ……	113
第 82 図	B305-OS 出土遺物 ……	100	第 107 図	B226-OF 遺構図 ……	114
第 83 図	B311・313-OS 断面図 ……	100	第 108 図	C667-OW 遺構図 ……	115
第 84 図	C356-OS 出土遺物 ……	101	第 109 図	C667-OW 東側板 4 枚目 (C587)、東側添板 (C591)、 西側添板 (C376) ……	116
第 85 図	B90-OB 遺構図 ……	102	第 110 図	C667-OW 出土木柱 (C243) ……	116
第 86 図	B90-OB (B90-OP) 出土遺物 ……	102	第 111 図	C667-OW 北側、 井戸枠 ……	117~118
第 87 図	B105-OB 遺構図 ……	103	第 112 図	C667-OW 西側、 井戸枠 ……	119~120
第 88 図	B150-OB 遺構図 ……	104	第 113 図	C667-OW 南側、 井戸枠 ……	121~122
第 89 図	B601-OB・B92-OF 遺構図 ……	105	第 114 図	C667-OW 東側、 井戸枠 ……	123~124
第 90 図	B601 (B732)・B150 (B688) -OP 出土柱根 ……	106	第 115 図	C667-OW 出土遺物 ……	125
第 91 図	C200-OB 遺構図 ……	107	第 116 図	C667-OW 出土遺物 ……	126
第 92 図	C203-OB 出土遺物 ……	108	第 117 図	C667-OW 出土遺物 ……	127
第 93 図	C203-OB 出土遺物 ……	108	第 118 図	C823-OX 出土遺物 ……	129
第 94 図	C270-OB 遺構図 ……	108	第 119 図	A2-OS 土層断面図 ……	131
第 95 図	C270-OB 出土遺物 ……	108	第 120 図	A8-OS 土層断面図 ……	131
第 96 図	C310-OB 遺構図 ……	109	第 121 図	A8-OS (A114) 出土遺物 ……	131
第 97 図	C310-OB 出土遺物 ……	109	第 122 図	A47-OS セクション 1・2 土層断面図 ……	132
第 98 図	C326-OB 遺構図 ……	109	第 123 図	A47-OS 出土遺物 ……	133
第 99 図	C326-OB 出土遺物 ……	110			
第 100 図	C354-OB 遺構図 ……	110			
第 101 図	C354-OB 出土遺物 ……	111			
第 102 図	C533-OB 遺構図 ……	111			

第124図	A47-O S出土遺物……………	134	第139図	A320-OP遺物 出土状態図……………	146
第125図	A47-O S出土遺物……………	134	第140図	A320-OP出土遺物 ……	146
第126図	A192-O S セクション1・2 土層断面図……………	135	第141図	A157-OB遺構図 ……	147
第127図	B133-O S 土層断面図 ……	135	第142図	A161-OB遺構図 ……	147
第128図	B232-O X 133・231・233・ 234・236-O S 土層断面図……………	136	第143図	A169-OB遺構図 ……	148
第129図	B233 (B848・861・854・864・ 879・881・885)・B234 (B859・860・863・958)・ 236-O S (B930・933) 出土遺物……………	137	第144図	A245-OB遺構図 ……	149
第130図	B299-O X、44・306・ 309-O S 土層断面図 ……	138	第145図	A333-OD遺構図 ……	150
第131図	中世溝 (C13・19-O S) 出土遺物……………	138	第146図	B2-O B、B35・38-O O 遺構図……………	151
第132図	B・C133-O S 断面図及び 獣骨出土位置図……………	139	第147図	B2-OP (B464)・10-OP (B756)・32-O X (B424・ 425・571・755・757)・ B39-OP (B573)・54-OP (B455・456)・55-OP (C427・428) 出土遺物…	152
第133図	B・C133-O S 出土遺物……………	140	第148図	B144-OB、B324・ 325-OF 遺構図…………	153~154
第134図	B・C133-O S 獣骨出土状態……………	140	第149図	建物B144-OB断面・ ……………	155
第135図	C233・234・235・236・240・ 262・328-O S 出土遺物…	143	第150図	B144-OB・根固め (瓦・石) 出土状態図…	155
第136図	A133-OB遺構図 ……	145	第151図	B144-OB 出土遺物……………	157
第137図	A129 (A23)・130-OB (A58・70) 出土遺物…	145	第152図	B144-OB 出土遺物……………	158
第138図	A132-OP直上 出土遺物……………	145	第153図	B126-OP 出土遺物……………	159
			第154図	B329-O X遺構図 ……	160
			第155図	B329-O X (B965・910・	

	897・877)、B316-O O (B902・894・896・892) 出土遺物…………… 161	第176圖 B地区第II・III層 出土遺物…………… 177
第156圖	B100-O F 遺構図 …… 161	第177圖 B 2~4地区B-4層面直上 出土遺物…………… 178
第157圖	B100-O F (B101-O P) 出土遺物…………… 161	第178圖 B 2~4地区III層(上層) 出土遺物…………… 179
第158圖	B250-O W 遺構図 …… 162	第179圖 B地区軒丸瓦・文字瓦 (内面)…………… 180
第159圖	B・C614-O B 遺構図 …………… 163~164	第180圖 C地区中世包含層出土石器 (C185)…………… 180
第160圖	B250-O W 并筒曲物・折板 (B741)…………… 165	第181圖 C地区中世包含層 出土遺物…………… 181
第161圖	B250-O W 出土遺物 …… 166	第182圖 C地区中世包含層 出土遺物…………… 182
第162圖	B333-O W 遺構図 …… 167	第183圖 C地区近世暗渠(C152-O S) 出土遺物…………… 182
第163圖	B333-O W 并筒曲物 …… 168	第184圖 B地区第I・II層 出土石器…………… 183
第164圖	B333-O W 出土遺物 …… 169	第185圖 C地区近世包含層 出土石器…………… 184
第165圖	C120-O W 遺構図 …… 171	第186圖 C地区近世包含層 出土陶磁器…………… 184
第166圖	C120-O W 出土遺物 …… 171	第187圖 旧河道推定復原図…………… 187
第167圖	B33-O O 遺構図…………… 171	第188圖 弥生~古墳時代河道 変遷図…………… 188
第168圖	B33-O O 出土遺物…………… 172	第189圖 奈良時代遺構模式平面図… 190
第169圖	B149-O O 遺構図 …… 173	
第170圖	B149-O O 出土遺物 …… 174	
第171圖	B316-O O 遺構図 …… 174	
第172圖	B611-O O 遺構図 …… 175	
第173圖	B32-O X 遺構図…………… 175	
第174圖	B232-O X 出土遺物 …… 176	
第175圖	B612-O X 出土遺物 …… 176	

付 図 目 次

- 付図1 大庭寺遺跡 遺構全体図(第1次面)
 付図2 大庭寺遺跡 遺構全体図(第2次面) B・C地区のみ

表 目 次

第1表	調査経過一覧表	13
第2表	奈良時代掘立柱建物一覧表	190
第3表	土器観察表	198
第4表	柱根観察表	238
第5表	C667-OW側板観察表	239
第6表	C152-OS出土近世陶磁器観察表	242

図 版 目 次

巻頭図版一	縄文時代・A地区・遺構・河道 上・土層断面A-3 下・ 土層断面A-5	図版 二	航空写真 発掘調査当時
巻頭図版二	古墳時代・B・C地区・遺構 上・B地区縄文・古墳時代河 川 下・C地区土器群出土状 態	図版 三	縄文～鎌倉時代第一次面遺構 航空写真
巻頭図版三	奈良・鎌倉時代・C地区・遺 構 上・奈良・鎌倉時代建物 群 下・奈良時代井戸・C66 7-OW	図版 四	縄文～鎌倉時代A地区遺構 縄文(上層面)～鎌倉(一次面) 縄文時代(下層面・二次面)
図版 一	遺跡全景 昭和17年垂直写真	図版 五	縄文時代・A地区土層断面 A-5土層断面(下層縄文河 道・北端下層縄文河道・南半 分・南半分上層)
		図版 六	縄文時代・A地区土層断面 A-3土層断面 A-2土層断面中央・縄文河

	道内出土桶		縄文・下層面全景（東から）
図版 七	縄文時代・A地区土層断面 A-2 上層断面東半分	図版一五	縄文時代・B地区遺構 B80-OX（東から） B80-OX遺物出土状態
図版 八	縄文時代・A地区土層断面 A-4 土層断面（中央部・北 端・南端）	図版一六	弥生時代・A地区遺構 A102・103-OS A102-OS、A-2 土層断面
図版 九	縄文時代・A地区遺構 縄文時代上層面（東から） 縄文時代下層面（西から）	図版一七	弥生時代・A地区遺構 左A103-OS、右A104-O O土層断面 第一次面検出植物根痕
図版一〇	縄文時代・A地区遺構 A122・123・124・383・384 -OO垂直写真	図版一八	弥生時代・A地区遺構 第一次面西側植物根痕 第一次面東側植物根痕
図版一一	縄文時代・A地区遺構 上層面K09VR付近遺物出土 状態 下層面A123-OO内遺物出 土状態	図版一九	弥生時代・古墳時代前期・B・ C地区遺構 B47-OD（南から） C666・668-OS C666-OS断面
図版一二	縄文・弥生時代・A地区遺構 縄文時代河道内出土桶 A123-OO出土樹木 A116-OO、A118-OO A上層面・北半分遺物 出土状態 A121-OO、K09XR・III C層出土弥生土器 A102-OS出土弥生土器	図版二〇	航空写真 昭和17年撮影 （旧河道が黒く写っている）
図版一三	縄文時代・B地区遺構 B599-OR（西から） B599-ORと対岸（南から）	図版二一	古墳時代・A地区遺構 A51-OS、A-2 土層断面 A385-OS、A5-OS須 恵器出土状態 K14KM・III層須恵器 出土状態 K14AP・III C層須恵器
図版一四	縄文時代・B地区遺構		

	出土状態		B・C56-OR右岸堆積状況
図版二二	古墳時代・B地区遺構 垂直写真（西側）	図版三二	古墳時代・B地区遺構 B・C56-OR堆積状況 （中央付近）
図版二三	古墳時代・B地区遺構 B76-OW掘削前、B76-O W完掘後		B56-OR堆積状況（B1- ORとの重複関係）
図版二四	古墳時代・B地区遺構 B76-OW断面 B76-OW遺物出土状態	図版三三	古墳時代・B地区遺構 B・C56-OR上層遺物 出土状態（1）
図版二五	古墳時代・B地区遺構 B43、44-OS断面 B42-OS断面	図版三四	古墳時代・B地区遺構 B56-OR上層遺物 出土状態（3）
図版二六	古墳時代・B地区遺構 B48-OS		B56-OR上層遺物 出土状態（4）
図版二七	古墳時代・B地区遺構 B53-OS、1-OR （南から） B1-OR断面	図版三五	古墳時代・B地区遺構 B・C56-OR下層遺物 出土状態（1）
図版二八	古墳時代・B地区遺構 B54-OS木製品出土状態 B54-OS土器出土状態	図版三六	古墳時代・B地区遺構 B・C56-OR下層遺物 出土状態（2）
図版二九	古墳時代・B地区遺構 B・C56-OR（右岸から） B・C56-OR（左岸から）	図版三七	古墳時代・B地区遺構 B・C56-OR川岸（Bトレ ンチ西から） B56-OR川岸と土層 （西から）
図版三〇	古墳時代・B地区遺構 B・C56-OR右岸遺構 検出状況 同上	図版三八	古墳・奈良・鎌倉時代・B地 区遺構南側全景（北から） 南側全景（南から）
図版三一	古墳時代・B地区遺構 B・C56-OR堆積状況		

- 図版三九 古墳時代～鎌倉時代・B地区
遺構 B301・42・43・44・
305・306・307・308・309全
景（南東から）
B308-OS、B42-OS
B302-OS、B43-OS
B309-OS、B44-OS
- 図版四〇 古墳時代・C地区遺構
C132-OR全景
C132-OR断面
- 図版四一 古墳時代・C地区遺構
土器群全景
土器群アップ
- 図版四二 古墳時代・C地区遺構
土器群アップ
土器群C77-OX断面
- 図版四三 古墳時代・C地区遺構
C78-OX断面
土器群断面
- 図版四四 古墳時代・C地区遺構
C683-OR木器出土状態
C130-OR土器出土状態
- 図版四五 奈良・鎌倉時代・B地区遺構
垂直写真（東半分）
- 図版四六 奈良時代・B地区遺構
東側建物群全景（東から）
B105-OB（北から）
- 図版四七 奈良時代・B地区遺構
B90-OB（北から）
B92-OF・B601-OB
- （北から）
- 図版四八 奈良時代・B地区遺構
柱根柱痕B150-OP、B87
-OP
B152-OP、B154-OP
B156-OP、B605-OP
B155-OP、B603-OP
B601-OP、B600-OP
- 図版四九 奈良時代・B地区遺構
B311・313-OS全景
（北から）
B311・313-OS土層
（北から）
B261-OS土層（東から）
B261-OSと土層（北から）
- 図版五〇 奈良・鎌倉時代・C地区遺構
垂直写真（東側）
- 図版五一 奈良・鎌倉時代・C地区遺構
C200・203・326・354-OB、
356-OS
- 図版五二 奈良時代・C地区遺構
東側（東から）
C200・203-OB
- 図版五三 奈良時代・C地区遺構
C310-OB
C326-OB
- 図版五四 奈良時代・C地区遺構
C354-OB
C533-OB
- 図版五五 奈良時代・C地区遺構

	C749-O B・集石状態 (C 680-O X)		A169-O B
図版五六	奈良時代・C地区遺構 C539-O P、C536-O P C754-O P、C750-O P	図版六六	鎌倉時代・A地区遺構 A133、245-O B
図版五七	奈良時代・C地区遺構 C667-O W	図版六七	鎌倉時代・A地区遺構 A145、353、360-O P断面 A143、151、177、 355-O P断面
図版五八	C667-O W遺物出土状態 奈良時代・C地区遺構 C667-O W	図版六八	鎌倉時代・A地区遺構 A47-O S北端部 A47-O S北端部内出土遺物
図版五九	C667-O W掘方内木樋出土 状態 奈良時代・C地区遺構 C667-O W井戸枠組み方	図版六九	鎌倉時代・A地区遺構 A192-O S (左上のみ)、 A47-O S断面 A47-O S中央部遺物 出土状態
図版六〇	鎌倉時代・A地区遺構 垂直写真 (南側)	図版七〇	鎌倉時代・A地区遺構 A47-O S中央部遺物 出土状態
図版六一	鎌倉時代・A地区遺構 A47-O S、161、169-O B A133-O B	図版七一	鎌倉時代・A地区遺構 A2-O S
図版六二	鎌倉時代・A地区遺構 南半分 (北から) 掘溝A161、 169-O B (南から)	図版七二	鎌倉時代・A地区遺構 A333-O D (南から) A132、320-O P、47-O S 遺物出土状態
図版六三	鎌倉時代・A地区遺構 A47-O S、161、169-O B (西から) A47-O S東端 (南から)	図版七三	鎌倉時代・B地区遺構 垂直写真 (西半分)
図版六四	鎌倉時代・A地区遺構 A161、169-O B	図版七四	鎌倉時代・B地区遺構 B2-O B、35-O O、 38-O O、B35-O O、 38-O O
図版六五	鎌倉時代・A地区遺構 A161-O B		

図版七五	鎌倉時代・B地区遺構 B35-00、B33-00 遺物出土状態		B144-OB全景（北から） B144-OB全景（東から）
図版七六	鎌倉時代・B地区遺構 B32-0X B32-0X出土状態	図版八四	鎌倉時代・B地区遺構 柱痕、根がため瓦 B169-OP、B127-OP B124-OP、B130-OP B140-OP、B139-OP B124-OP、B144-OP
図版七七	鎌倉時代・B地区遺構 B133-OS B133-OS断面	図版八五	鎌倉時代・B地区遺構 柱痕土器出土状態 B145-OP、B344-OP B144-OP、B335-OP B341-OP、B205-OP B114-OP、B334-OP 東遺構面直上
図版七八	鎌倉時代・B地区遺構 B133-OS土層（北から） 偶蹄目（牛）の足跡		鎌倉時代・B地区遺構 B316-00、B144-OB （北西から） B316-00全景（南から）
図版七九	鎌倉時代・B地区遺構 B233-00とB133-OS土層（北から） B133、234-OS土層①（北から） B133、231、234-OS土層②（北から）	図版八六	鎌倉時代・B地区遺構 カマドB329-0X全景（西から） B329-0X（東から）
図版八〇	鎌倉時代～江戸時代・B地区遺構B4区全景（南から）、 B4区全景（北西から） B133、236、234、236-OS（北から）	図版八七	鎌倉時代・B地区遺構 鎌倉時代・B地区遺構 B329-0X焼土、炭完掘全景（西から）
図版八一	鎌倉時代A・B地区遺構 垂直写真（東側）	図版八八	鎌倉時代・B地区遺構 B329-0X焼土、炭完掘全景（西から） 横断立割断面（東から） 壁体内の瓦出土状態 焼成部羽釜出土状態 壁体の検出面と袖石出土状態
図版八二	鎌倉時代・B地区遺構 B144-OB全景（東から） B144-OB全景（北東から）		
図版八三	鎌倉時代・B地区遺構		

	焼成部の袖石出土状態	図版九七	縄文時代・A地区遺物 縄文土器
図版八九	鎌倉時代・B地区遺構 B333-OW全景(北から) B333-OW井筒(北から) 下段井筒(北から) 一段目井筒内瓦器椀出土状態	図版九八	縄文時代・B地区遺物 縄文土器
図版九〇	鎌倉時代・B地区遺構 B250-OW全景(北から) B250-OW井筒と底の礫敷 井戸堀方瓦器椀出土状態 一段目井筒内瓦器椀出土状態 井戸枠抜き取り時の投入遺物 出土状態	図版九九	縄文・弥生時代 A地区遺物 石蔵、石核、チップ
図版九一	鎌倉時代・B地区遺構 B149-OO(北から) B149-OOとB144-OB 底面瓦器椀出土状態(北から) 上層遺物出土状態(西から)	図版一〇〇	弥生時代・A地区遺物 弥生土器、石包丁未製品
図版九二	鎌倉時代・C地区遺構 中世農耕関連溝群 C120-OW	図版一〇一	弥生時代・B地区遺物 B47-OP(B683)、 B・C56-OR(B677~682、 684、685)
図版九三	鎌倉時代・C地区遺構 B・C614-OB C133-O S断面	図版一〇二	弥生・古墳時代 C地区遺物 弥生・布留式土器C80・81は C666-O S
図版九四	近世・C地区遺構 C152-O S	図版一〇三	古墳時代・B地区遺物 B・C56-OR(B763、840) 76-OW(B975)出土遺物
図版九五	近世・C地区遺構 C152-O S遺物出土状態	図版一〇四	古墳時代・B地区遺物
図版九六	縄文時代・A地区遺物 縄文土器	図版一〇五	古墳時代・B地区遺物 B・C56-OR出土遺物
		図版一〇六	古墳時代・B地区遺物 B・C56-OR出土遺物
		図版一〇七	古墳時代・B地区遺物 B・C56-OR出土遺物
		図版一〇八	古墳時代・B地区遺物 B・C56-OR出土遺物
		図版一〇九	古墳時代・B地区遺物 B・C56-OR出土遺物
		図版一一〇	古墳時代・B地区遺物

- B・C56-OR出土遺物
- 図版一一一 古墳時代・B地区遺物
B・C56-OR出土遺物
- 図版一一二 古墳時代・B地区遺物
B・C56-OR出土遺物
- 図版一一三 古墳時代・B地区遺物
B・C56-OR出土遺物
- 図版一一四 古墳時代・B地区遺物
B・C56-OR出土遺物
- 図版一一五 古墳時代・B地区遺物
B・C56-OR出土遺物
- 図版一一六 古墳時代・B地区遺物
B・C56-OR出土遺物
- 図版一一七 古墳時代・B地区遺物
B・C56-OR出土遺物
- 図版一一八 古墳時代・B地区遺物
B・C56-OR出土遺物
- 図版一一九 古墳時代・B地区遺物
B・C56-OR出土遺物
- 図版一二〇 古墳時代・B地区遺物
B・C54-OS
- 図版一二一 古墳時代・C地区遺物
- 図版一二二 古墳時代・C地区遺物
- 図版一二三 古墳時代・C地区遺物
土器群
- 図版一二四 古墳時代・C地区遺物
土器群
- 図版一二五 古墳時代・C地区遺物
土器群
- 図版一二六 古墳時代・C地区遺物
- C130-OR一括出土土器
- 図版一二七 古墳時代・C地区遺物
C132-OR出土遺物
- 図版一二八 古墳時代・C地区遺物
C132-OR出土遺物
- 図版一二九 古墳時代・C地区遺物
C132-OR出土遺物
- 図版一三〇 古墳時代・C地区遺物
C683-OR出土遺物
- 図版一三一 古墳時代・C地区遺物
C683-OR出土木製品
- 図版一三二 古墳時代・C地区遺物
中世包含層出土陶棺
- 図版一三三 奈良時代・B地区遺物
須惠器 土師器
- 図版一三四 奈良時代・C地区遺物
C354-OB出土遺物
- 図版一三五 奈良時代・C地区遺物
C356-OS出土遺物
- 図版一三六 奈良時代・C地区遺物
C356-OS出土遺物
- 図版一三七 奈良時代・C地区遺物
C667-OW出土遺物
- 図版一三八 奈良時代・C地区遺物
C667-OW出土遺物
- 図版一三九 奈良時代・C地区遺物
C667-OW出土墨書土器
- 図版一四〇 奈良時代・C地区遺物
C667-OW出土遺物
- 図版一四一 奈良時代・C地区遺物

- C750-OP (上)・C754-OP (下) 出土遺物
- 図版一四二 奈良時代・C地区遺物
C823-OX出土遺物
- 図版一四三 奈良時代・C地区遺物
C823-OX出土遺物
- 図版一四四 奈良時代・B・C地区遺物
B601-OP、B150-OP、
C681、C822、C264、C237、
C738-OP柱根
- 図版一四五 奈良時代・C地区遺物
C345、372、536、241、539、
365、730、296-OP柱根
- 図版一四六 奈良時代・C地区遺物
C667-OW、井戸枠、北側
側板(内面)
- 図版一四七 奈良時代・C地区遺物
C667-OW、井戸枠、北側、
側板(外面)
- 図版一四八 奈良時代・C地区遺物
C667-OW、井戸枠、東側、
側板(内側)
- 図版一四九 奈良時代・C地区遺物
C667-OW、井戸枠、東側、
側板(外側)
- 図版一五〇 奈良時代・C地区遺物
C667-OW、井戸枠、東側、
側板、側面
- 図版一五一 奈良時代・C地区遺物
C667-OW、井戸枠、西側、
側板(内面)
- 図版一五二 奈良時代・C地区遺物
C667-OW、井戸枠、西側、
側板(外面)
- 図版一五三 奈良時代・C地区遺物
C667-OW、井戸枠、南側、
側板
- 図版一五四 奈良時代・C地区遺物
C667-OW、井戸枠、南側、
側板(外面)
- 図版一五五 奈良時代・C地区遺物
C667-OW、井戸枠、側板、
柄
- 図版一五六 古墳・鎌倉時代・A地区遺物
須恵質紡錘車、陶質土器、
須恵器、磁石
- 図版一五七 古墳～鎌倉時代・B地区遺物
B329-OX (B910)、2
-3層 (B953、914、981)、
3層 (B733、758、754、461、
2601、901) 出土遺物
- 図版一五八 古墳～鎌倉時代・C地区遺物
中世包含層出土遺物
- 図版一五九 鎌倉時代・A地区遺物
A47-OS (A53・62、65、
116、113)、A129-OB (A
12、13)、130-OB (A23、
58)、A132-OP (A115・
320-1)、A320-OP (A
61・64・66) 出土遺物

- 図版一六〇 鎌倉時代・A地区遺物
A47-O S出土遺物
- 図版一六一 鎌倉時代・A地区遺物
A47-O S出土遺物
- 図版一六二 鎌倉時代・A地区遺物
A177 (A11)、143 (A12)、
355-O P (A13) 柱根
- 図版一六三 鎌倉時代・B地区遺物
B32-O X (B424、425、
427、428、455、755、757)、
39-O P (B573)、54-O P
(B456、458) 出土遺物
- 図版一六四 鎌倉時代・B地区遺物
B32-O X (B571)、33-O
O出土遺物
- 図版一六五 鎌倉時代・B地区遺物
B236-O S (B881、958)、
234-O S (B879、859、860、
863、)、612-O X (B909、
962) 出土遺物
- 図版一六六 鎌倉時代・B地区遺物
B232-O X出土遺物
- 図版一六七 鎌倉時代・B地区遺物
B333-OW、B149-O O
出土遺物
- 図版一六八 鎌倉時代・B地区遺物
B250-OW出土遺物
- 図版一六九 鎌倉時代・B地区遺物
B250-OW (B950、969)、
建物柱穴B140-O P (B977)、
142-O P (B946)、145-O
P (B986、970)、169-O P
(B966)、139-O P (B942)
169-O P (B961) 出土瓦
- 図版一七〇 鎌倉時代・B地区遺物
B132-O P (B957)・B139
-O P (B963)・B137-O
P (B980)・B216-O P
(B978)・B169-O P (B
971)・B344-O P (B948・
979)・B130-O P (B983)・
B145-O P (B964) 出土瓦
- 図版一七一 鎌倉時代・B地区遺物
建物柱穴、B124-O P (B
810)、144-O P (B1006)、
335-O P (B952)、342-O
P (B940)、55-O P (B
428)、144-O B直上 (B878)
- 図版一七二 鎌倉時代・B地区遺物
B250-OW 曲物井筒
- 図版一七三 鎌倉時代・B地区遺物
B333-OW 曲物井筒
- 図版一七四 鎌倉時代・B地区遺物
B333-OW 曲物井筒
- 図版一七五 鎌倉時代・C地区遺物
B・C133-O S出土遺物
- 図版一七六 鎌倉時代・B・C地区遺物
B・C133-O S出土獣骨
- 図版一七七 鎌倉時代・C地区遺物
C328-O X遺構内出土遺物

- | | | | |
|-------|---|-------|--------------------------------|
| 図版一七八 | 鎌倉～江戸時代・A地区遺物
瓦器碗A8-O S、青磁、白
磁A47-O S (A84) 波佐見
焼碗 | 図版一八六 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 |
| 図版一七九 | 鎌倉～江戸時代・B地区遺物
陶磁器 | 図版一八七 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 |
| 図版一八〇 | 弥生～江戸時代・C地区遺物
中近世包含層近世暗渠C152
-O S 出土遺物 | 図版一八八 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 |
| 図版一八一 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 | 図版一八九 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 |
| 図版一八二 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 | 図版一九〇 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 |
| 図版一八三 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 | 図版一九一 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 |
| 図版一八四 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 | 図版一九二 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 |
| 図版一八五 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 | 図版一九三 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 |
| | | 図版一九四 | 江戸時代・C地区遺物
C152-O S 出土近世陶磁器 |

第I章 調査に至る経緯

大庭寺遺跡は堺市小代及び大庭寺地区に所在する。この地域はいわゆる陶邑古窯跡群の一画にあたる。そのほか周辺には、陶邑深田遺跡、伏尾遺跡あるいは野々井遺跡、小阪遺跡などが知られている。当初、陶邑深田遺跡の範囲に入れられていたが、石津川で区切られることや距離があることなどから、大庭寺遺跡の範囲に入れられた。

日本道路公団が建設する近畿自動車道と歌山線が、大庭寺遺跡や野々井遺跡を通過することから、発掘調査が必要となった。昭和61年11月25日～昭和62年2月25日にかけて、当協会では大阪府教育委員会の指導のもとに、石津川から和田川の間、小代地区から野々井地区にかけて試掘調査を実施した。大庭寺遺跡の中心地である小代・大庭寺地区では奈良時代から中世の包含層が確認されたほか、古墳時代の河川が検出された。また、全地域で弥生時代から中世にかけての遺物の出土を見た。なかでも、野々井遺跡にあたる野々井地区では縄文時代の遺物が出土したほか、弥生時代の未完成木製品が多量に出土し、同時代の大家集落の存在を確認した。以上の結果をもとに、大阪府教育委員会が調査範囲を決定し、日本道路公団大阪建設局と協議の上、昭和62年5月28日から昭和63年3月25日まで大阪府教育委員会とともに大庭寺遺跡の調査を実施することとなった。調査は範囲が広く、中央に大きな水路があるため、残土置き場の関係で、A・B・Cの3地区に分割して調査を開始した。

当初、試掘調査の結果を元にG L - 4 mの古墳時代の河川の川底まで調査を実施する予定であったが、調査が進んだ段階で奈良時代及び中世の集落跡が検出された。奈良時代では墨書土器の入った井戸を伴う建物群が検出されたほか、特に、中世の集落は東西を溝で囲まれた計画区画割りの集落が予想されたため、大阪府教育委員会は奈良時代から中世の遺構面を保存することに決定し、日本道路公団大阪建設局と協議に入った。このため、A・B・C 3地区で部分的に古墳時代の川底まで調査を実施したところと、奈良時代及び中世の遺構面で保存となったところとができた。統一が取れない調査となったが、調査の進展による遺跡の保存のためであり、御理解願いたい。

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 地理的環境

大庭寺遺跡は、大阪府堺市小代に所在する、縄文時代晩期から江戸時代にかけての複合遺跡である。堺市の市域は、南は和泉山脈麓近くにまで広がり、北西は大阪湾に面している。この市域の南西部を流れているのが石津川である。石津川は泉北丘陵に源を発し、大阪湾にむかって舌状に延びるゆるやかな丘陵の合間をぬって北上し、大阪湾に至る。本遺跡は、石津川本流によって形成された低位段丘の西岸に位置する。

石津川は、本遺跡付近より北において蛇行が著しいが、この川は、近年に河川改修が行われるまでは暴れ川として知られていた。昭和17年撮影の航空写真では、改修前の旧地形がはっきりとわかる。特に、兩岸にみられる条里による地割と、条里施行後に旧石津川流路上に営まれた水田の地割の違いに石津川の氾濫状況が明瞭に表れている。今回の調査地は、条里地割の残る地域に含まれている。このあたりは、古代の上神（にわ）郷の条里に含まれる。また、この写真においては、今回の調査対象地付近に黒い影が広範囲に写っているのがよみとれる。これは土中の水分量の違いを示すものであり、当初から石津川の旧河道の存在が予想されていた。調査の結果はこれを裏付けることになった。

調査対象地は、調査着手前には水田および果樹園として利用されており、調査地南西側から石津川に向かって階段状に傾斜していた。標高は、南西側の最高地点においてT.P. +28m、北東側最低地点でT.P. +27mを測る。当該地のすぐ南西側は、中位段丘の泉北丘陵に続いている。この丘陵は日本最大の須恵器生産の拠点であり、これが古墳時代の大庭寺遺跡を性格付ける重要な要素となっている。

参考文献

- (1) 『堺市史 続編』第1巻 堺市役所 1971年
- (2) 『府道松原東大津線開通遺跡発掘調査報告書Ⅱ -西浦橋遺跡-』（財）大阪文化財センター 1984年

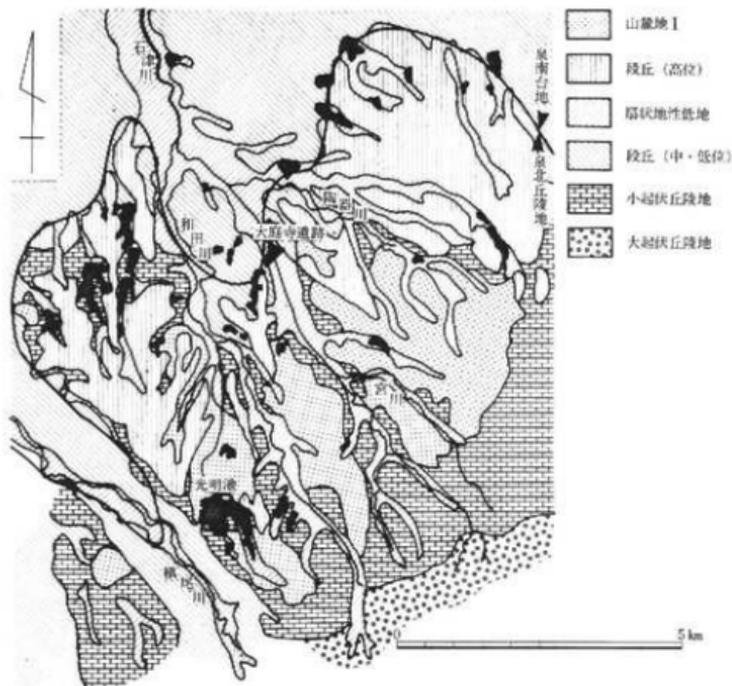


第1図 大庭寺遺跡の位置及び旧地形・条里制復元図

第2節 歴史的環境

堺市域も、近年の急激な開発の波に洗われ、大規模な住宅建設や都市計画道路造成が次々と行われている。それらに伴って、埋蔵文化財の行政発掘もその件数を増し、多くの遺跡の存在が明らかになってきている。これらの遺跡については、『府道松原泉大津線関連遺跡発掘調査報告書 II -西浦橋遺跡-』にその概要が網羅されている。これは、堺市域全体にわたるマクロ的な視野で歴史的環境を集大成したものである。そこで本報告書では、大庭寺遺跡周辺のみに限ったミクロ的な視点で歴史的環境を概観することにする。

大庭寺遺跡の周辺では、石津川とその支流である和田川に挟まれた沖積地に旧石器時代からヒトの足跡がうかがわれる。野々井遺跡、鈴の宮遺跡、万崎池遺跡などにおいては国府型ナイフや有舌尖頭器が検出されている。ただし、旧石器時代の遺構はまだ確認されて



第2図 土地分類図



- | | | | | |
|--------------------|-------------|------------|---------------|--------------|
| 130. 陶器千疋 | 151. 伏尾遺跡 | 181. 小坂遺跡 | 274. 栗木上遺跡 | 292. 倉谷・富藏遺跡 |
| 135. 万田遺跡 | 152. 深田池遺跡 | 249. 栗木遺跡 | 275. 對ヶ井遺跡 | 296. 寺濱遺跡 |
| 137. 新山古墳 | 158. 草部遺跡 | 263. 平井遺跡 | 276. 小谷城跡 | 297. 泉田中遺跡 |
| 138. 山田遺跡 | 159. 万崎遺跡 | 266. 大平寺遺跡 | 277. 對ヶ井南遺跡 | 299. 山田北遺跡 |
| 139. 野原河内遺 | 160. 額田池東遺跡 | 267. 辻之遺跡 | 278. 登田遺跡 | 300. 新和道古墳 |
| 142. 宇石古墳群 | 161. 高瀬池遺跡 | 268. 小代古墳群 | 279. 東山城跡 | 301. 堀川遺跡 |
| 146. 松尾塚原古墳群 | 162. 栗木下遺跡 | 269. 瀧野遺跡 | 280. 高藏遺跡 | |
| 147. 【東北】多治津比叢神社本殿 | 163. 万崎池遺跡 | 270. 田原遺跡 | 281. TK731石室跡 | |
| 148. 【国史】松井神社拜殿 | 164. 八田西門遺跡 | 273. 大庭寺遺跡 | 289. 西山城跡 | |

第3図 大庭寺遺跡と周辺遺跡

おらず、検出された遺物は全て二次堆積中のものである。

縄文時代に関しても、現在までに晩期より以前の明確な遺構は検出されていない。しかし、太平寺遺跡において早期末から前期初頭の遺物が出土している。また野々井遺跡、上遺跡から後期初頭の北白川上層式の土器が、それぞれ出土している。晩期になると、西浦橋遺跡、上遺跡、鈴の宮遺跡、小阪遺跡において晩期終末期の長原式土器が出土している。特に西浦橋遺跡ではこの時期の土壇墓が検出されており、周辺に集落の存在が推定されている。今回の調査でも長原式の土器が確認されている。

弥生時代に関しても、現在のところ前期の集落は確認されていない。ただし、鈴の宮遺跡、上遺跡、西浦橋遺跡で前期の土器は出土している。中期にはいると、菱木下遺跡で竪穴住居跡、方形周溝墓が、鈴の宮遺跡で方形周溝墓や土壇が検出されている。また野々井遺跡では、直径10mの大型住居跡や木製品を多量に出土する溝が検出され、集落の存在が明らかにされている。これ以外に中期の遺構として特に顕著なものは、西浦橋遺跡のしがらみである。後期になると、菱木下遺跡、鈴の宮遺跡では集落が衰退する。代わって、中期後半から後期にかけて伏尾遺跡、万崎池遺跡、野々井遺跡で新たな集落が成立している。

古墳時代初頭に入ると、庄内期の土器が小阪遺跡でまとまって出土している。今回の調査で布留式前半期の土器が大量に出土している。また、伏尾遺跡ではこの時期の住居跡が検出されている。鶴田池東遺跡では6世紀後半の土壇墓群が検出されている。

古墳時代後期に関してこの地域を特色づけているのは、泉北丘陵に広がる全国最大規模の須恵器生産地、「陶邑古窯跡群」である。大庭寺遺跡の周辺でも須恵器の生産開始と共に明確な生活の痕跡が出現してくる。深田橋遺跡は、須恵器の集散地と考えられている。また、万崎池遺跡、菱木下遺跡、西浦橋遺跡、小阪遺跡では須恵器工人の集落や土壇墓群が確認されている。特に小阪遺跡では、TK73型式期の集落が存在することが明らかにされている。陶邑古窯跡群は丘陵の尾根ごといくつかのグループに分かれているが、大庭寺遺跡は、地理的にみて、このうちの榊支群ともっとも密接な関わりがあるものと思われる。

また、榊丘陵上には、古墳時代後期の群集墳である牛石古墳群が存在する。大庭寺遺跡の南東部に隣接する濃登ノ池には野園池古墳が存在していたことが知られている。

大庭寺遺跡の「大庭」は、古代の大庭村に由来するものである。しかし、従来はこの時期の遺構はあまり知られていなかった。わずかに万崎池遺跡で奈良から平安時代の製鉄跡の存在が考えられている程度であった。今回大庭寺遺跡で検出した奈良時代の遺構はこの

空白を埋めるものといえる。中世では菱木下遺跡、野々井遺跡、平井遺跡、豊田遺跡で集落がみつまっている。

参考文献

小阪遺跡 181

- 1986 『小阪遺跡（その1）－調査の概要－』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
 1986 『小阪遺跡（その2）－調査の概要－』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
 1987 『小阪遺跡（その3）－調査の概要－』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
 1987 『小阪遺跡（その4）－調査の概要－』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
 1988 『小阪遺跡（その5）－調査の概要－』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
 1986 服部文章「初現的須恵器陶工集団と集落－小阪遺跡（その3）の調査を中心として－」
 『第4回近畿地方埋蔵文化財担当者研究会資料』（財）大阪文化財センター
 1988 『小阪遺跡（その6、6-2）－調査の概要－』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター
 1988 『小阪遺跡（その7、7-2）－調査の概要－』大阪府教育委員会・(財)大阪文化財センター

伏尾遺跡 151

- 1988 「伏尾・大庭寺遺跡発掘調査（現地説明会資料 19）」大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会

野々井遺跡 275

- 1989 「野々井遺跡発掘調査（現地説明会資料 21）」大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会
 1989 「第4回 泉州の遺跡－昭和63年度発掘調査成果展－」(財)大阪府埋蔵文化財協会

陶邑古窯跡 246

- 1966 『陶邑古窯跡群 I』平安学園考古学クラブ

※この地域の遺跡に関する文献は『信太山遺跡』（財）大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第12輯 1987を参照されたい。

第Ⅲ章 調査の方法と調査経過

第1節 調査の方法（第5・6図）

調査は、試掘調査以外3つの本調査区・その他の調査区ともに、同一の方法をとって行った。

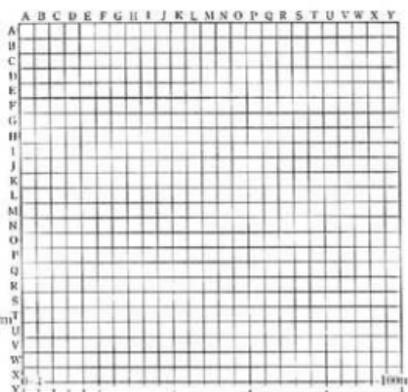
調査地は、水路・里道など地形によって3分割されており、北からA調査区・B調査区・C調査区と仮称した。この区分した1つの調査区が1つの工区（工事請負工区）となった。さらに、土砂置き場を考慮する必要等からそれぞれ調査区を前半（1区）・後半（2区）調査区と、反転掘りの方法をとった。



第4図 調査地位置図（1/6,000）

大E5-5 (地図表題)

A	B	C	D	
E	F	01 02 03 04 05 01 02 03 04 05 06 07 08 09 10 06 07 08 09 10 11 12 13 14 15 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 21 22 23 24 25		
I	J	K	L	



第5図 地区割の方法模式図

調査区内の遺跡の位置・地区割を示すのに、(財)大阪府埋蔵文化財協会は国土座標を基軸に設定した独自のものを使用することを決めているが、今調査ではその地区割とこれら調査区仮称名を併用して使用した。

協会の地区割とは、「国土調査基本法」に基づく新平面直角座標系の国土座標第VI座標系(昭和43年建設省告示第三〇五八号)を使用し、新版2,500分の1の地域計画図(地形図)を基本にして、4m×4m(16㎡)の方格区画割を行うもので、大阪府下全域をカバーする。これは、地点名称や遺物取り上げなど発掘調査上の最小単位を示すものである。地区割の呼称方法は、新版の大阪府地域計画地形図の横軸-X軸、縦軸-Y軸(縦軸は南北座標を示す)を使用し、地形図を12分している500m×500mの区画をAからLのアルファベットで呼び、更に先の500m四方区画を25分割した100m×100mの区画を2桁の01~25の数字で示す。この100m四方の区画を縦横それぞれ25等分して625分割した4m×4mの区画をつくり、縦方向を先に、横方向を後にして、アルファベットの行列として、以上5桁の記号で示す。遺物の取り上げ・実測作業は、この地区割のX・Y軸を基軸線として行った。なお今回の調査対象地は、地域計画図・大E-5-5 K09・13・14・18・19に該当する。

X・Y座標軸設定の基準杭の設置作業は、3級・4級基準点の水準で行った。標高はT.P.(東京湾中等潮位)を使用する。

具体的な掘削作業は、I層をバックホウにより除去した後、II層以下を人力掘削によって調査を実施した。各層の上面で遺構検出作業を繰り返して実施し、断ち割り、地山層と各土層の把握に力を注いだ。

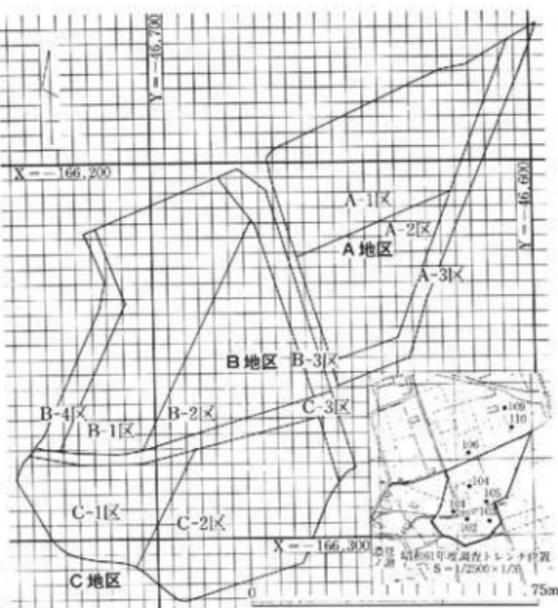
全体遺構実測作業は、航空測量による図化作業(1/20)を測量業者に委託して行った。その他の図面は、全体土層図(1/20)・遺構土層図(1/10)を作成し、

遺物出土状態図(1/5・1/10)を基本とした。土層の色調については、『新版標準土色帖』を使用した。土質は、粒径区分によった。

写真撮影は、全景・遺構・土層・土層断面等4×5・6×7モノクロ・35ミリモノクロと併行してカラーズライドで行った。

フィルムは、カラーFUJICHROME Professional モノクロFUJINEOPANを使用した。また、ヘリコプターによる航空写真測量(隣接写真との重複度=飛行方向に対して60%以上・コース互間40%以上)に乗じて上空から斜め写真を撮影した。

出土遺物は、地区・層位ごとに分類し、洗浄・注記・接合・復原を行った後、代表的な遺物を選別して実測・写真撮影を行い、当報告書に掲載した。



第6図 地区割図(1/1,500)

第2節 調査経過（第1表）

近畿自動車道と歌山線大庭寺遺跡の調査は、61年度…試掘調査、62年度…A地区・B地区・C地区の調査を実施した。

A・B・C調査区は、結果的には本調査区の他いくつかの進入路・里道部分の調査から成る。即ち、A地区ではA1区・2区・3区に3区分、B地区ではB1区・2区・3区・4区に4区分、C地区ではC1区・2区①②・3区に4区分して調査を実施した。

それぞれその調査の経過は以下に述べる通りである。

昭和61年度調査

日本道路公団大阪工事事務所の委託契約を受けて、財団法人大阪府埋蔵文化財協会は、近畿自動車道と歌山線予定地の堺市小代から檜尾に至る3kmの試掘（1次）調査に着手した。調査は、昭和61年11月から62年2月にかけて水田・畑地を対象に、大庭寺遺跡・野々井遺跡を壘掘りて実施した。

野々井遺跡では、縄文時代後期の良好な包含層や、弥生時代中期の土器・木製品が大量に検出された。大庭寺遺跡では、柱穴・土壇などの遺構と、砂層中から須恵器の完形品などの出土を見た。

なお、今回報告する地区の試掘調査結果については、終了報告より以下呈示しておく。

試掘調査では、近畿自動車道予定地内に檜尾地区から小代地区にかけて81箇所のトレンチを設定した。このうち石津川西岸の旧氾濫原においては、本年度調査地域内を含め8箇所（101～106・109・110）のトレンチを設定した。その結果、全てのトレンチにおいて古墳時代から中世にかけての遺物包含層を検出した。この包含層は、丘陵に近い101～104トレンチでは耕作土下60～10cmと、比較的厚く堆積している。これに対して、石津川に近い105・106・109・110トレンチでは耕作土下30～10cmで堆積している。

また、103トレンチでは中世の遺物包含層直下に、厚さ約20cmの奈良時代の遺物包含層とピットを検出した。この層では、古墳時代後期と奈良時代の須恵器、土師器が出土している。この層の直下には、古墳時代後期の須恵器を出土する砂層が、約20cmの厚さで堆積している。104トレンチでは、耕作土下120cmから下の青灰色砂礫層から、完形品を含め古墳時代須恵器および土師器が多量に出土した。この層は耕作土下約210cmまで続くことを

確認した。105トレンチでも、耕作土下100cm前後で、同じ層を部分的に検出したが、遺物は出土しなかった。(各トレンチの位置は第6図を参照)

以上の調査結果を踏まえ、今回の調査が実施されることとなった。

昭和62年度調査

試掘調査の成果を受けて、用地買収が終了している大庭寺遺跡段丘崖から石津川氾濫原の調査に着手する事となった。

協会は調査区を3区分し、A・B・Cの3つの土木工事請負業者と航空測量業者が決定された。

現地調査は、調査課第二班(班長玉井功)・第六班(班長森村健一)が担当し、A地区を班長森村・技師有井宏子・B地区1区を技師器加見泰彦・I地区縄文・2区～4区を同田中一廣・C地区を同福田佳男・同有井広幸が昭和62年7月15日より63年3月25日迄の日程で現地調査に従事した。調査は、A・B・C工区それぞれ調整を取りながら、各自に工程を組んで実施した。以下、調査経過は一覧表(第1表)に示した通りである。

途中、奈良時代・鎌倉時代集落が検出され、これらの遺構を中心に大阪府教育委員会の指導で保存協議がもたれ、一部保存が計られた。よって保存部分については砂養生し、当初の古墳時代河道・縄文時代面までは掘削を行っていない。結果的には、調査地を部分的に拡張した所・部分的に掘り下げた所がある。遺構の広がりについては、次年度以降これらの結果をもとに追求していく必要がある。

尚、途中の調査結果はマスコミに対して記者発表を実施し、研究者・一般府民を対象として現地説明会を昭和62年10月31日と昭和63年2月7日に開催した。

整理作業

整理作業は、昭和63年4月1日より平成元年3月31日まで63年度事業として泉大津調査事務所で行った。具体的な整理作業は、それぞれの担当者と調整をとりながら主担当者として第4班班長森村(8月1日付第1班班長兼統括班長)・副担当者として第6班技師有井が実施した。各地区の担当者は各班・現場で調整をとりながら各自担当して本報告書を作成した。

第I表 調査経過一覧表

地区		(月)												
		'87.6	7	8	9	10	11	12	'88.1	2	3			
A 地区	調査開始													
	調査終了													
	調査期間													
B 地区	調査開始													
	調査終了													
	調査期間													
C 地区	調査開始													
	調査終了													
	調査期間													

第Ⅳ章 調査の成果

第1節 層序

基本層序（第7図）

今年の調査面積は9128㎡で、3つの調査区は、里道と水路で分割されていた。調査前のレベルはC地区の西半が最も高くT.P.+28.5mで、中ほどに段がついてT.P.+28mとなりB地区に至る。B地区の途中でも、再び段がありT.P.+27.5mとなりA地区へと続き、A地区の北端ではT.P.+27mを測る。このように調査面積が広く、各地点で表土のレベルも異なっていたため、調査前から、各調査区共通の層を認識することは困難であることが予想された。そこで調査に際しては、調査区ごとに土層の時期を決め、土層の時代でもって各調査区相互の対応関係を検討していくことにした。

なお、本項では、各層の概略を述べることにとどめ、詳細な観察結果は次項以下に譲る。

第Ⅰ層 近・現代の遺物包含層である。A～C地区の全体に分布する。黒褐色腐食土からなり、層厚10～30cmを測る。この層は調査の最初に、機械により除去したため、第7図には示されていない。現代の耕作土である。

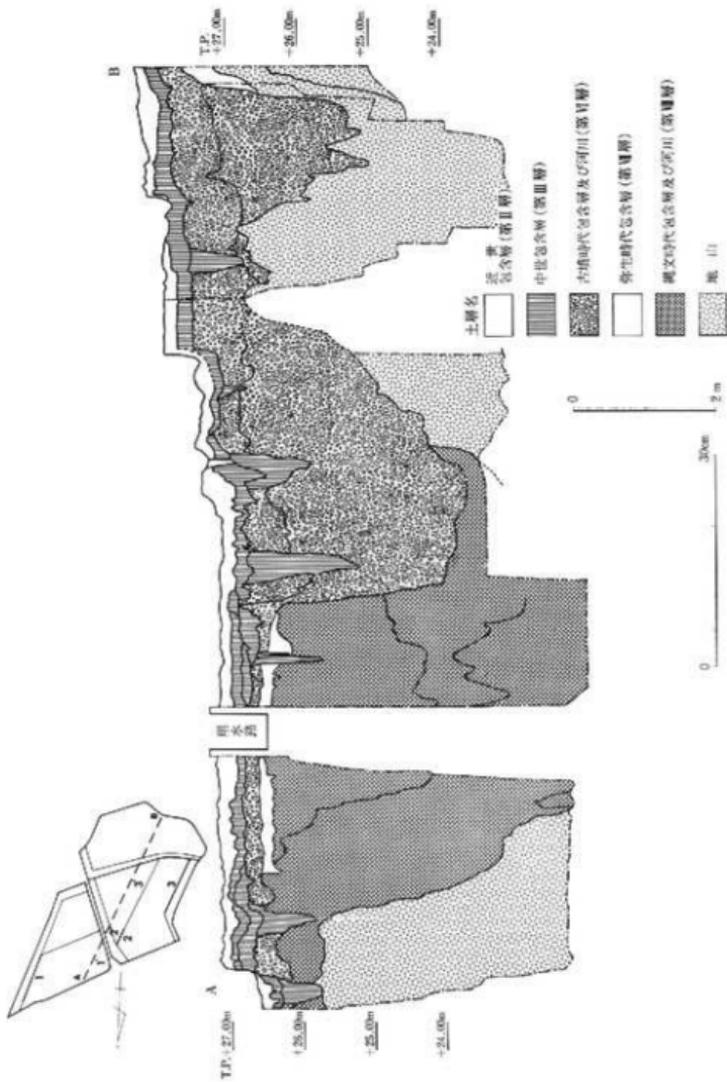
第Ⅱ層 近世の遺物包含層である。A～C地区にかけて層相は異なるが広く分布している。調査区により2つに細分できたところもある。層厚10～30cmを測る。近世の陶磁器と共に須恵器、土師器も多く出土している。やはり耕作土と考えられる。

第Ⅲ層 中世の遺物包含層である。この層もA～C地区にかけて層相は異なるが広く分布している。各調査区でさらに2～4つに細分される。層厚10～40cmを測る。出土遺物は瓦器、須恵器、土師器、陶磁器、瓦等で、13世紀代の瓦器が最も新しい時期の土器である。中世よりも古墳時代、あるいは奈良時代の遺物の方が多く出土する地点もある。

第Ⅳ層 平安時代の遺物包含層として設定したが、今回の調査では純粋な包含層としては確認することはできなかった。

第Ⅴ層 奈良時代の遺物包含層として設定したが、第Ⅳ層同様に、今回の調査では純粋な層として確認することはできなかった。

第Ⅵ層 古墳時代の遺物包含層である。B・C地区では古墳時代中期～後期にかけての河道と、その河道がほぼ埋まった後で調査区全体を覆う水平堆積層からなる。河道の堆積



第7図 大仏寺遺跡模式土層図

層は砂礫とシルト層からなる。河川の上を覆っている層は各調査区で2～3つに細分され、層相は各調査区で異なる。層厚30～70cmを測る。出土遺物は、古墳時代中期・後期の須恵器である。

なお、第VI層と第III層の間には大きな不整合が認められ、第VI層上面で奈良時代と中世の遺構を検出した。

また、B・C地区では布留式期の遺構も僅かに認められるが、遺物は遺構からの出土に限られ、包含層は形成していなかった。

第VII層 弥生時代の遺物包含層である。遺物は僅かにA・C地区で認められただけである。A地区ではT.P.+26.2～27.0mの所で、中期の溝が検出された。C地区ではT.P.+27mのところで後期の破片がT.P.+26.2mのところで前期の土器が出土している。

第VIII層 縄文時代の遺物包含層をいう。晩期の土器が出土している。A・B地区で検出した河道と、その肩部の堆積層である。肩部で土器の出てくるレベルはT.P.+26m前後である。

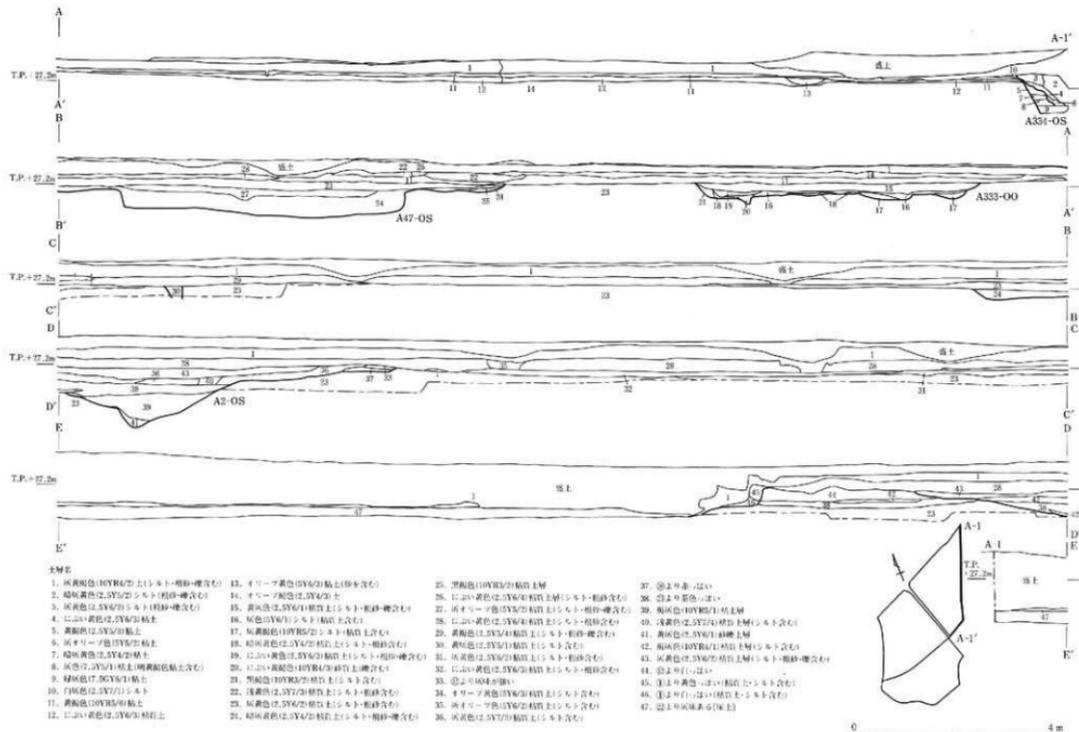
地山層 縄文時代あるいは古墳時代の河川のベースとなっている層を地山として認識した。非常に固く締まった層であり、乾痕が無数に認められた。検出した中で最も高い所がT.P.+27.2mである。

A地区・土層断面図(A-1) (第8図)

A334-O5は、A2-O5と平行する溝である。後世の水田耕作用の排水路によって擾乱を受けていたが、かろうじて東側肩は、残存していた。第14層は、A2-O5に直交する溝の埋土である。A47-O5やA333-O0は、第23層をベースとする層より掘り込まれている。この付近のベース高は、T.P.+23.3mであるが北側では、0.1～0.2m下がる。建物を画するように配置されたA47-O5は、この付近では苑池状遺構となり幅広くなっている。又、両側面は、石が置かれていたらしく垂直あるいは、えぐれた形態を示す。第24層は、ブロック状の埋土が目立ち廃絶後、短期間に埋め戻されたと考えられる。尚、この溝の東側断面には、古墳時代中期(5世紀後半)と考えられる埋土、V字状断面を呈する。A2-O5の南側上辺は、やや上がりぎみである。両側面とも2段掘りとなっておりゆるやかな傾斜の後、急激な段となる。北側上辺は、幅3.0mの堤状遺構の後、0.6mの段差がつく。溝底は、T.P.+25.9mであった。

A地区・土層断面図(A-2) (第9図)

層序は、3層に大別される。下層から縄文流路2、縄文流路1そして、水平堆積を基本



第8図 A地区・土層断面図(A-1)

とした弥生時代中期から現代までである。弥生時代より新しい土層については、別項で触れているので今回は縄文流路1・2・9についてのみに述べる。縄文流路9は、弥生時代中期のA102-O-Sと位置・流れの方向がほぼ重複していた。幅6.2m、深さ1.5mの流路内には、シルト、粘質土、粗砂、細砂が中心でたいして激しい流れはなかった。縄文流路1・2の性格については、土層断面(A-3)を参照されたい。

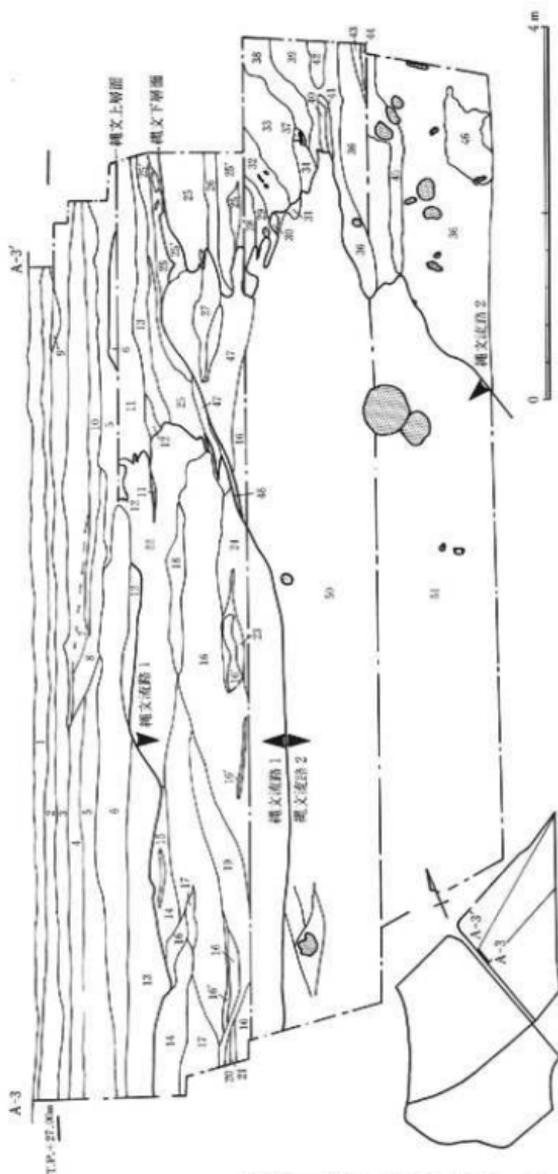
A地区・土層断面図(A-3) (第10図)

土層断面図の上部は、概ね水平堆積である。第I層は、中世遺構面でのその標高はT.P.+27.2m前後である。第II・III層は、古墳時代で前者は5世紀後半・後者は4世紀代の包含層と言える。弥生時代中期のベースより切り込まれた流路状遺構が北半分で検出された。

埋土は、当時の流れの状態を示すようにシルト層が主であった。縄文時代上層面(第1次面)は、明黄褐色シルトがベース層で同時に流れていたのが縄文流路1である。流路内は、細砂、細礫、粗砂が主体として埋土として確認されて径5~20mmを最大とする礫を少し見つけた。従って壁の挟れの状況とも考え合わせると急激な流れはなかったものと推察される。緑灰色シルト層をベースとする縄文時代下層面(第2次面)は、縄文流路2と対応する。その上層は、同色の粘質土が被る。この面の遺構としては、A122~124・383・384-O-Oである。蛇足になるが、縄文上層面の遺構としては、A108・109・111~113・118・121等が上げられる。縄文流路2は、一時的な急激な流れを物語るように挟れが著しい。最大10cmにも及ぶ礫が多量に混入し径60cm、長さ10m近い大木を数本検出した。又、調査区中央部では、GL-5.2~5.5mローリングを受けた縄文土器・石器をも検出した。流れの方向は、東から西に向かっておりこの流れよりも古い流路3~8よりも相当、西に振っていたようである。

A地区・土層断面図(A-4) (第11図)

西側では、縄文時代第2次面をT.P.+26.4mで確認した。ベースは、灰オリーブ色シルト層である。調査区西端より3m東のところでは0.7mの段差がつく。東側で上がるのは、調査区東端より9m西へ寄ったところであった。縄文土器が包含した所は、西側寄りでレンズ状も含め複雑な堆積状況を示す。この部分は、A383-O-Oの遺構内である。それより東側の堆積は、安定した水平堆積であった。この断面図では、縄文時代第2次面より古い時代の流路(河道)を3~8の6本を認知したことに注目したい。縄文流路3は、縄文流路4・5よりも古い段階の流れである。埋土は、粘質土とシルト層で構成されておりゆ



第10図 A地区・土層断面図 (A-3)

- 土層名
1. 上層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 2. 上層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 3. 上層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 4. 上層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 5. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 6. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 7. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 8. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 9. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 10. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 11. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 12. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 13. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 14. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 15. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 16. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 17. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 18. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 19. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 20. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 21. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 22. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 23. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 24. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 25. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 26. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 27. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 28. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 29. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 30. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 31. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 32. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 33. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 34. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)
 35. 中層黄色土層(10YR6/4)シルト(粘土土含む)

